

子どもたちといっしょに

「セレスティヌのクリスマス」

さく-ガブリエル・バンサン
やく-もり ひさし

くまのアーネストおじさん
シリーズの1冊です。

このシリーズは、年齢をこえて人気があります。くまのアーネストと、セレスティヌの出会いから、ずっとたどって読んでみてください。心がほのぼのとして、幸せになります。

さて、このクリスマスの絵本も、とても楽しいですよ。どうしてもパーティーをやりたいセレスティヌの気持ちに、アーネストおじさんは、応えてくれます。さあ、どんなパーティーになるでしょう。ご家族であたのしみください。



第38回読書会



「それぞれの世界へ」

マリア=フリーベ・作 (講談社)
山内清子・訳

12月14日(日) 1:30~3:30
於・白根学習館ルーム3(和室)

いよいよ、最終巻! たのしみ!
参加ご希望の方は、カウンターまで
(しろね図書館 しろね図書館友の会 共催)

10月11月12月は、参加者の希望で、シリーズものを取り上げました。本を通して、日常生活感や、子育てのことなど、楽しい会話がはずみます。ご参加お待ちしております。

12月の行事

3	(水)	絵本のじかん 3:00~
6	(土)	おはなし会 3:00~
7	(日)	第2回 1:00~ おやつ 絵本・物語に2247(2)
10	(水)	絵本のじかん 3:00~
13	(土)	おはなし会 3:00~
14	(日)	第38回 1:30~ 読書会「それぞれの世界へ」
17	(水)	おはなし会 3:00~
20	(土)	2:00~4:00 クリスマスおはなし大会
21	(日)	第2回 1:00~ おやつ 絵本・物語に2247(2)
24	(水)	絵本のじかん 3:00~

お知らせ

★年末年始の閉館について
12月は、26日まで、1月は、6日から開館しお
12月27日は、館内書架整理のため、
1月5日は、開館準備整理のため休館
します。ご了承ください。

★このために、12月13日~12月26日の間、借出冊数貸出
倍期間貸出をします。ご利用ください。

★今月から、当分の間、興の企画コーナーを、
「ビジネスコーナー」としました。出来るだけ、皆様の
の仕事に役立つ資料を揃えたいと思っています。
図書館を利用して、不況を乗りこえましょう。

しろね図書館だより

No. 43

発行 白根市立図書館
平成 15 年 12 月 1 日

瘦かへるまけるな一茶是にありつぎにひかへし會津ハ朔
「會津ハ朔は小林一茶を知る初めから、人間性も文学観も一茶と一体、
同体と思い、心の底から通い合う人として共感していたのである」
911(會津ハ朔と信州 監修/新潟市會津ハ朔記念館より)

パラパラと本をめくっていたら、面白い歌を見つけた。はやくも師走に入ってしまった。世は、刻一刻と変わっていくような気がする。いささかなりとも、ユーモアと余裕をもって、忙しい年の暮れを過ごしたいものである。

11月の

来館者-----14433人(96/8/85)
貸出冊数-----13,606冊
予約件数-----192件

ブックバス利用者-----567人
ブックバス貸出冊数-----1789冊

リクエスト情報 (しばらくお待ちください)

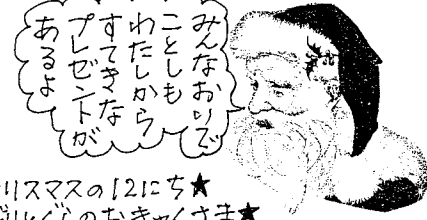
- 1位・千と千尋の神隠し (9名)
 - 2位・冬のソナタ (6名)
 - 3位・世界の中心で愛を叫ぶ (4名)
 - 4位・ダレンシヤン9 (4名)
 - 5位・ダレンシヤン8 (3名)
 - 6位・anego (3名)
- etc.

クリスマス おはなし 大会

12月20日(土) 2時~4時

- 1回目 2:00~2:30 (30名) 0歳以上
- 2回目 2:30~3:00 (30名) 小学生以上
- 3回目 3:00~3:30 (30名) "
- 4回目 3:30~4:00 (30名) "

1時30分から、各回の整理券を出します。先着30名。お出をお待ちしております。



- ★クリスマスの12にち★
- ★くじくらのおきやくさま★
- ★北風に会いにいた少年★
- ★12の月のおくりもの★

- ★星の銀貨★
- ★スタークスさん一家★
- ★かさじぞう★

などなどおはなしいっぱい

～図書館員がおすすめするこの一冊～

『人形たちのクリスマス』 ターシャ・テューダー作 ないとうりえこ訳
(メディアファクトリー)
(ティーンE)

もうすぐクリスマス。クリスマスやサンタクロースの本はたくさん出版されていて、図書館でも12月の展示架に、クリスマスの本を集めています。たくさん紹介したい本があるのですが、今回はこの本を紹介したいと思います。

物語の主人公は2人の人形です。フランス人形のセサニー・アンと強い個性のあるナイシー・メリンダ。パンピングハウスと呼ばれる、大きな人形の家に住んでいます。

クリスマスに人形達は、自分たちのクリスマスツリーを立てて、パーティーを開きます。持ち主のローラとエフナーが人形に代わって招待状を書き、友達に送ります。人形達のパーティーってどんなパーティーだと思います？それは読んでのお楽しみ。

この人形たちのクリスマスパーティーは、実際に作者の家で行われています。森で見つけた木で、本物の小さいツリーを作り、飾ります。作者の家では永いこと人形たちのクリスマス>を祝ってきたそうです。

作者のターシャは現在、アメリカバーモント州にある農地で暮らしています。家は彼女の設計で、息子のセスが建てました。ヤギや牛、犬などの動物に囲まれ、四季折々の花・野菜・果物などを育てています。彼女は1830年代の生活にあこがれていて、なるべく自給自足の生活をするよう心がけているそうです。

彼女は、自分の絵の良さは、想像ではなく現実知っている物を描いているところにあると言っています。花は美しく、動物は生きているよう！本当に可愛らしくて、好きになる人も多いはず。ぜひ手にとってみてください。



【司書】中川 沙穂里

第三十七回 読書会

十一月二十三日(日)午後一時半より

◆参加者六名◆
『自分の部屋があったら』

マリア・グリーベ作



ているので内緒でお風呂に入れてあげたりもします。

愛してくれた亡きおばあちゃんに、出さない手紙を書くことで、自分を確信しながらロツテンは成長していきます。

★★★★★

「あたしが今経験している変化は、大人になる」ということなのでしょう」

自覚できているところがロツテンのすごさ。手紙を書く事で気持ちの整理がつくとはこの歳には分らなかったと思う。ろうそくの灯りがとても美しく描かれていたり、暗闇の世界が恐怖ではなく、美しい世界として捉えられている事など文化の違いが表れていると感じた。

…参加者…

「ドリーの側にロツテンがいるだけで、クラスメイトのいじめから守れる強さ、存在感だけでも十分に魅力的な少女。

…参加者…

「転校生のドリーにはハラハラで、お風呂に入れる所でもうロツテンを巻き込まないで欲しいと思った。

…参加者…

「逆にもっとドリーに何か起こして欲しい」と期待した。

…参加者…

「奥様であるオルガにロツテンが憧れるのは母としては寂しい所だと思うのですが…母親というよりも女性として意

かれていますのだろう。女性として、オルガとママ、どちらが勝っているという事ではなく、時代背景からみてママのような人がきつと多かったはず。そんな中でオルガは美しく、女神に思えても仕方ない。

★★★★★

…参加者…

北欧では子供でも一人の個人として尊重されていると感じました。登場人物の少年少女みんな、自分をちゃんと持っていて日本の同年代と比べても日本は幼いとの声も上がりました。

今回もさまざまな方向へ話が弾み、ヤングアダルト文学に参加者は大人だっただ夢中になれる、子供にはぜひ読んで欲しい！

と読書会は終わりました。

次回の読書会は…

十二月十四日(日)

三作目

『それぞれの世界へ』

マリア・グリーベ作

どうぞ、ご参加ください。

【大野 恵子】

今週はいったおもしろそうな本

